

平成28年度 学校自己評価システムシート

学校法人狭山ヶ丘学園 狭山ヶ丘高等学校

目指す学校像	自己観察教育に基づき、学力向上と部活動の充実発展を目指す。
--------	-------------------------------

本年度の重点目標	1、教科指導の徹底と学力向上 2、部活動の活性化 3、自己観察教育の深化 4、基本的生活習慣の構築
----------	--

達成度	A ほぼ達成 (8割以上)
	B 概ね達成 (6割以上)
	C 変化の兆し(4割以上)
	D 不十分 (4割未満)

年度当初					最終評価(4月5日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	評価指標	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策
1	・予習、復習を徹底させ、授業内容を充実させること。 ・先生により導入の分かりやすさに差がでて、生徒の取り組み方が変わって来ている。 ・どこまで理解したか、全体の理解度が把握しきれていない。	・授業内容、特に分かりやすさと関心を引く度合いに着目。 ・小テストを使って理解度をみる。	・導入を工夫して、展開をていねいにして、分かることを実感させる。 ・展開の中で、発展・応用への展望を生徒に持たせられるように指導する。 ・授業に変化を持たせる。	・自学自習をするようになったかどうか。 ・生徒の授業への満足度が高まったかどうか。 ・生徒の実力が向上したか。	・授業に集中するようになり、理解している度は増えた。導入と展開・発展のバランスが難しく進路調整に時間が掛かる。	C	・授業参観、研究授業をもっと積極的に行い、授業の質的向上を更に図る。 ・教科会等を利用して、分かり易い授業と受験問題の研究を更にする必要がある。 ・やる気にさせる授業を考えてみたい。
2	・いろいろな目標を持った部活動があってもよい。勝つことを目標とした強化部、また、勉学と両立しながらの一般部があるが、文化系部活動を活性化させることが重要。	・部活動の活性化 ・学習と両立できる部活動の展開 ・体育祭等でみる部活生の連帯感	・部活動に全生徒が参加できるように呼び掛ける。 ・短時間で集中した部活動にできるように練習内容を模索する。 ・練習試合を利用して、モチベーションを高める。	・部活動への参加数が増えたか。 ・活発に活動しているクラブが増えたか。 ・両立を叶えた生徒が増えたか。	・部活動顧問会にて、生徒の参加状況等を把握。各クラス担任は、面談等を通じ、両立のための適切なアドバイスをした。 ・クラブの試合報告をした。	B	・試合結果等を広く発表し、活躍を告げる。また、応援できる環境の整備。 ・短時間で効果的な部活動の運営を更に模索する必要がある。
3	・自己観察教育の柱である黙想が形骸化しつつあるなかで、生活全般の中に、どう我が身を振り返る習慣を身に付けられるか。本来の自己観察が実践できるかである。	・どんだけ内省できるかの頻度と感謝する気持ちがこころの中に呼び戻せるかの度数に着目	・黙想後調べた事を発表させる。 ・総合学習の時間に実践体験させてみる。 ・部活動に応用してみる。 ・具体的にしてもらった事、して返した事、ご迷惑は、と思い出させた。	・黙想時、生徒がどんだけ集中しているか。 ・集中するまでにかかる時間がどんだけ短縮できるか。	・試合前に黙想すると、試合に集中し始める時間が短くなって行く。 ・総合学習時や授業の始め等に分散内観させると反応が生徒それぞれとなるが、親への感謝の気持ちが生じる例もあった。	C	・授業の進度のため、ていねいな指導ができていないのが現状である。 ・HR時に行う黙想には創意工夫ができるので、テーマを与えて忍耐強く実践してみる。
4	・基本的生活習慣は概ね、確立されており、欠席、遅刻、早退は少ない。 ・挨拶等がしっかりできる生徒は、まだ多くはない。 ・状況によって弁えた行動がとれない生徒がいる。	・挨拶の励行 ・弁えた行動がとれる。 ・校則違反の指導に従う。	・先生から声を掛ける。 ・予告など事前に十分指導、説得し、その上で校則を守らせる。 ・担任のHR時の指導をしっかりとする。	・校則違反者がどの程度少なくなったか。 ・挨拶が交わされているか。	・違反者の数にあまり変化がない。 ・今まで以上に挨拶をしない。 ・まだまだ、弁えた行動がとれない生徒がいる。	C	・校則違反者に妥協しないで注意をする。特にHR時の担任指導は大切である。 ・あらゆる機会に違反者を正す姿勢が必要である。間髪を入れず注意できるかである。 ・挨拶励行は自ら